

千歳宣言を補完する若者のアクションプラン

J8 サミット 2008年7月7日 北海道千歳市

私たちは J8 の代表として、千歳宣言のフォローアップをすることが重要だと信じます。宣言の内容に取り組むための最も重要なアクションは、問題意識を高めること、そしてこれらのグローバルな問題についての教育基準を社会の中で高めていくことだと提案します。若者は、人々にアクションをおこさせるために革新的かつ創造的な方法をとっていかなくてはなりません。若者はグローバルな問題に関心を持っています。だから政府は若者の意見に関心を持たなくてはなりません。これこそが私たち若者の権利です。

私たちの考えは以下のとおりです。

気候変動への取り組みに対する若者のアクションプラン

- **国際条約**：現在利用が可能な様々なメディアを使って、若者は団結しなければなりません。例えばソーシャル・ネットワーキング・サイトを通じてつながりを保ち、インターネット上で意見の交換や共有をすることができます。また J8 代表はニュースレターを年 4 回発行し、個人のアクションの詳細を報告していきます。このニュースレターは、J8 の知名度が高まることによってさらに活発になり、より広範なメディアに届くことを期待しています。
- **技術開発**：政府がとるアクションについて、若者は積極的に関心を持ち、役割を担っていく必要があります。これは、若者主導の組織や団体に参加し、最新の課題について常に情報を把握していくことで実現できます。また私たちが最大限の能力を発揮することで、未来に変化を与えられるということも確認できます。このような組織は、効果的なアクションを実行するため、また考えをより多くの人に聞いてもらうため、若者が一丸となって取り組んでいかなくてはなりません。
- **代替エネルギー**：若者が学校の内外で、お互いに教育し合うという主導権を持つことがきわめて重要です。政府や年配世代が気候変動の問題にとりくまない場合、若者が立ち向かわなくてはなりません。学校のプログラムは、気候変動と地球温暖化をくい止める重要性を、教育を受けている年上の生徒からより若い世代へ伝えていくという方法をとるべきです。
- **環境問題に取り組む子どもと若者**：より効果的な技術を見つけるための手伝いを若者がすべきです。進歩を確認するために、学校や組織間でのコンテストを奨励するのもひとつの方法です。このコンテストは、例えばグリーン技術を作り出したり、より効果的な指導方法を見つけ出すなどの内容が考えられます。

貧困と開発（主にアフリカ）に対する若者のアクションプラン

- **子どもの基本的権利**：私たちの提案を完全に実行するには何をしなければならないか、また何がなされてきたかを、J8 コミュニティ全体および「ボイス・オブ・ユース（若者の声）」のフォーラムのメンバーが、インターネット上で話し合います。次回の J8 サミットまでの間、無活動を指摘する手紙や嘆願書を 3 ヶ月ごとに書きかえます。そして次回の J8 でこのアクションプランを更新していきます。

- **経済インフラ**：J8 コミュニティは、企業の社会的責任を果たしている会社を支援し奨励します。具体的には、その会社の商品を購入したりサービスを利用すること、仲間に広めること、また社会的責任に対して積極的に貢献している会社のキャンペーンに（ボランティア・宣伝活動を問わず）参加することなどが挙げられます。
- **紛争解決**：「紛争解決」の提案で述べた教育やメディアにより、様々なコミュニティの若者がつながることができます。世界中の若者がブログやソーシャル・ネットワーキング・サイトを通じて「真実の話」を共有できるようになります。言語の障壁は、ファシリテーターが取り除く手伝いをします。このようなメディアを通じて真実の話を読んだ若者には、さらなるアクションを起こそうという気持ちが生まれると考えます。
- **援助と資金の責任**：先進国および途上国の若者は、途上国での援助活動に参加できるよう政府に要請するべきです。援助が透明で効果的であることを確認するためです。このような「若い大使」は、途上国におけるインフラの建設や整備の現場を直接体験し、証人にならなくてはなりません。
- **貧困との闘いに取り組む子どもと若者**：私たちの提案の進捗状況を若者が監視する必要があります。このためには、企業や国家の年次報告書を読み、ニュースやメディアに常に注目し、大きな若者のコミュニティと連絡を取り続けなくてはなりません。J8 ワークスペースのような場で情報資源を活用しながら、お互いに情報を共有していきます。

国際保健と HIV/エイズを含む感染症に対する若者のアクションプラン

- **保健教育**：ソーシャル・ネットワーキング・サイトやワークショップなどの様々な方法を通じて、若者は年齢に応じたライフスキルを送り届けたり、受け取ったり、活用したりすることができます。宗教上のイデオロギーにかかわらず、若者が保健を優先するように奨励することが重要です。
- **医薬品の特許**：若者は、それぞれの国の製薬会社に対して、特許共有プログラムに参加するよう働きかけることができます。また、途上国の若者は組織と一緒に取り組んで、特許の配布の監視を助けたり、低価格の後発医薬品がコミュニティに供給されているかを調査することができます。
- **保健医療助成金**：若者は、学校やコミュニティのプログラムを通じて基金集めに参加し、政府の助成金に貢献することができます。例えば保健医療パッケージのための資金調達をして政府と責任を共有することなどが挙げられます。
- **国際保健に取り組む子どもと若者**：若者は、現地の組織や団体に大使としてボランティアすることができます。これは、創造的な方法によって保健問題の意識を高めることに役立ちます。さらに、ナショナル・テストリング・デー（HIV の全国一斉検査）や保健フェアなどのイベントの運営に参加することで問題に取り組んでいくことができます。